

社会福祉法人ぶどうの木

## 2023年度事業計画書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

### I 事業方針

2020年から猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症は、今なお人々の生活に影響を与えている状況です。ロゴス点字図書館でも視覚障害者へのサービスやボランティアの活動において、当たり前のように行ってきた事業の遂行が難しくなりました。しかしながら、事業を止める訳にはいきません。状況等を把握し、外部環境の変化に対応しながら、以前のように対応できる状態まで戻ることができました。そして、それは改善を繰り返し、よりニーズに合った方法へと発展しています。

2023年度はカトリック点字図書館の時代から数えて創立70周年を迎えます。当時と比べると、視覚障害関係の世界もさまざまな法改正が行われ、利用者の情報もさまざまなかたちで収集できるようになりました。当館はその変遷に確実に対応するとともに揺るぎない理念「考える図書館」を基軸としたサービスを目指して来ました。

新型コロナウイルス感染症によって変化した利用者へのサービス、ボランティア活動等は、職員にとっても業務を見直すきっかけとなりました。「コロナの時代」の経験を踏まえて見直した業務のメリットはそのまま継続するとともに、さらなる改善を進めて、より良いサービスを目指します。当館の方針による蔵書を中心に、充実した事業を継続し、利用者に安心して「生きる糧」を見出していただけるように、以下の重点施策を定め、事業計画を作成しました。

### II 重点施策

#### 1 電子書籍（テキストデータ・テキストデイジー）製作促進

テキストデイジーとは、書籍のテキストデータを録音図書と同様にデイジー形式で編集したものです。利用するためには対応した専用の再生機器もしくはスマートフォンアプリが必要になります。

視覚障害者情報総合ネットワークのサピエ図書館では、年々テキストデイジーのコンテンツが増えてきており、点字図書・録音図書に比べると、製作時間が短く、タイムリーに読書が楽しめます。

当館では、前年度にテキストデイジー研修会を行い、その技術を学習しつつ、すでにボランティア活動として始動しています。

テキストデイジー製作をする過程において、図書をテキスト化するという作業が欠かせません。テキストとは、文字コードだけで構成されたデータで、音声読み上げソフトを用いればパソコン等で読み上げることができ、視覚障害者等の大切な情報源となっています。また、テキストデータは、テキストデイジーに使用できるだけでなく、自動点訳ソフトを使って、点字に変換することができます。その他、拡大図書の製作に使用したり、弱視の方は、パソコン等で文字を拡大して利用することができます。まさに、ひとつのデータを

複数の用途に使用する、ワンソース・マルチユースが可能なデータです。今年度は、ワンソースのテキストデータを製作するボランティア養成の促進と、テキストデイジーを製作するボランティアの充実、加えて点字図書の製作にも使用できるよう整えてまいります。

サピエ図書館へテキストデイジーのコンテンツを登録するには、審査を通過しなければなりません。全国の利用者のためにも提供できるよう、審査に向けて、ボランティア、職員の技術習得に努めてまいります。

## 2 「フィラデルフィア会・声の文庫」テープ図書のデイジー化完了

社会福祉法人設立時に「フィラデルフィア会・声の文庫」から移管された3,500タイトルものテープ図書は、デイジー編集の開始と同時にボランティアの協力のもと、デイジー化してきました。これは、音源を1タイトルずつアナログからデジタルに変換し、さらにデイジー編集をするという手間と時間のかかるプロジェクトでした。他の図書館ですでに製作しているもの、音源の不良なものを除き、完成時には新刊図書案内「ロゴスのほん箱」に掲載してきました。これらのデイジー図書は、利用者からの貸出希望も多く、予約待ちも出るほどです。デイジー化することで、まさに遡及のテープ図書が蘇るのです。

今年度は、当初より時間がかかると予測したデイジー化を、ボランティアの協力を得て、完了いたします。

完了後、「ロゴスのほん箱」には、新規製作分の図書に加え、サピエ図書館からの図書情報を紹介し、今まで以上に充実した情報提供を目指します。また、現在も紹介している、当館で人気のあった図書のランキングや、作家の特集など、利用者の読書の幅を広げられるような案内にしていきます。

## 3 全国の動きを見据えた業務の対応・サービスの充実

利用者のニーズに合わせた図書製作やサービスは時代とともに変化し、多様化します。当館に登録していただいている利用者だけではなく、サピエ図書館を通して当館の図書を全国の視覚障害者等が利用しています。その方々に応えるために、全国組織の委員会等があり、製作の調整や、サービスのあり方などを検討しています。これらの動きや製作基準の改定を反映し、全国の製作基準を満たす良質の図書を製作します。そのうえで、当館の個性・強みを発揮し、サービスの充実を実現してまいります。

また、職員が全国組織の委員・プロジェクトにかかわることで、図書館全体の最新の状況を把握し、当館に還元していくとともに、職員自身の技術・知識の向上につなげていきます。

# Ⅲ 事業計画

## 1 図書館サービス

利用者への貸出については、サピエ図書館、国立国会図書館の情報を駆使し、他館との相互貸借を積極的に行います。また、「考える図書館」という当館の理念に基づく蔵書構成を強みとして、幅広い図書の利用を促します。

図書の検索や案内を行うレファレンスサービスについては、利用者が希望する図書を確実に提供できるように職員の検索スキル等を磨き、図書を通して利用者とのコミュニケーションを図り、安心して利用していただけるよう努めます。

ご希望のあった図書でまだ製作のないものについてはリクエストまたはプライベート

サービスとして柔軟に点訳・音訳を行います。リクエストは蔵書方針に則り製作を決定しますが、プライベートサービスでは情報支援の観点から、図書以外のホームページや小冊子などの情報についても対応します。また対面朗読サービスについてはホームページやリーフレットでの案内を通し、引き続き利用を促します。

図書の媒体について、テープ図書利用者にデージー図書利用を積極的に働きかけた結果、移行がほぼ完了しました。今後はテープ図書における蔵書の除籍等、貸出の状況や、他施設の動向を見据えながら検討していきます。

## 2 図書製作

利用者からリクエストがあり、当館の理念に合致する図書の製作を基本としています。また、古典的名作でまだ製作されていないもの、最新の図書で、蔵書方針に合う図書も積極的に製作していきます。

新規図書の製作数は、点字図書25タイトル、録音図書（デージー）20タイトルを目標とします。新規タイトルとは別に「フィラデルフィア会・声の文庫」から移管されたテープ図書を50タイトルデージー化し、移管作業を完了させます。

テキスト化作業を促進することで合理化を図り、そのデータをテキストデージー製作、点字図書製作に使い、迅速に利用者へ提供できるように、流れを整備していきます。

## 3 ボランティア養成

点訳ボランティアについては、引き続き点訳ソフトの使用法習得のために、ボランティア間でのサポート体制の充実を図ります。また、定着しつつある点訳・校正勉強会の実施（年12回）をし、ボランティアのモチベーションを上げるとともに、一人で悩まない、ボランティア同士の交流を充実させます。

音訳ボランティアについては、毎年実施している音訳勉強会と音訳校正勉強会をそれぞれ月1回（8月は除く）開催します。昨年度、講師の事情により外部講師によるスキルアップ勉強会ができませんでしたが、今年度は外部講師をお招きしての勉強会も組み入れます。

点訳・音訳両方のボランティアに対して行う点訳・音訳合同勉強会については、昨年度好評を得ることができ、引き続き開催する予定です。また、点訳・音訳ともに高齢化や諸事情による活動者の減少対策として、ホームページで活動者を募集し、別の地域・団体に活動中の方への声かけをするなど、人員増加を図ります。

テキストデージーのボランティアについては、「フィラデルフィア会・声の文庫」のデージー化が完了予定のため、そのボランティアにテキスト化・テキストデージー化のボランティアとして活動していただく予定です。軌道に乗るまでの体制作りを、ボランティアと一緒に整えていきます。

## 4 地域貢献（点字教室、ICTサポート）

地域貢献として、直接来館できる方を対象に、見えない・見えにくい方のための点字教室を引き続き実施します。自身も中途失明当事者である方を講師に、受講生のレベルやニーズに合わせて月2回、1コマ60分の単位で個別に開講します。

ICTサポートは、相談業務中ではなくてはならない業務となっています。スキル習得が出来ないことによる情報格差が生じることを防ぐためにも、充実させていきます。小規模施設であることを活かし、集合研修による講習ではなく、個々のニーズに柔軟に対応していきます。そのほか、生活での困りごと、障害による悩みなど、ご本人または家族からの相談に対応します。また、相談から図書館への利用につなげることにより、新規利用登録者を確保していきます。

## 5 行事

今年度はカトリック点字図書館の時代から数えて創立70周年を迎えます。11月18日(土)、日本カトリック会館のマレラホールを会場に70周年記念式典を行う予定です。歴史の重みを実感し、そして新たな一步を踏み出せるような式典を目指します。

## 6 定期刊行物・出版

支援者向けニュースレター「通信あけのほし」を年4回、利用者向け新刊図書案内「ロゴスのほん箱」を隔月(偶数月)、「ロゴスのほん箱」でご紹介した蔵書を1年分まとめた「ロゴス点字図書館点字図書目録」「ロゴス点字図書館録音図書目録」を年1回、また有料のものについては、カトリック教会のミサで用いる「聖書と典礼」点字版を毎月発行します。

「ロゴスのほん箱」については、全国の図書をご紹介したり、タイムリーな情報を提供する等、内容を充実していきます。なお、デージーへの利用移行が完了したため、テープ版の製作を終了しました。

「ロゴス点字図書館点字図書目録」「ロゴス点字図書館録音図書目録」は、全国の視覚障害者等の皆さんが当館の蔵書を知っていただく機会にもなることから、サピエ図書館へ点字版・デージー版のコンテンツの登録をします。

「聖書と典礼」については、利用者からの希望をもとに録音版(デージー)の試作を続け、今年度中の事業化を目指します。

点字出版については、販売終了したものを含め、見直し見極めを行い、蔵書に移行するなど、より広く、多くの利用者に提供できるよう、精査していきます。

## 7 関係機関との連携

全国の視覚障害者情報提供施設が加盟している全国視覚障害者情報提供施設協会(全視情協)、日本盲人社会福祉施設協議会(日盲社協)の会員、各委員、プロジェクトメンバーとして協力し、視覚障害者の情報提供における課題解決に取り組みます。また、関東地区点字図書館協議会の事務局(2年間)を担当します。

## 8 法人業務・会議体

2023年度は役員改選を迎えます。理事会4回、評議員会1回、評議員選任・解任委員会1回の開催を予定しています。